



## 有機農業をはじめよう！

研修から営農開始まで

有機農業参入促進協議会監修  
 涌井義郎・藤田正雄・吉野隆子・  
 大江正章著

定価 1800 円＋税 コモンズ

### 有機農業への関心に応える

2016年のオーガニック食品市場は約10・2兆円（55万国の小売り売上高）で、ここ数年は多くの国で毎年10%以上の伸びが続いています。世界の有機農業者数と有機ほ場面積も急激に増加しており、有機ほ場のシェアが国内農地の10%以上を占める国は15カ国に及び、そのほとんどはヨーロッパ諸国です。対して日本の有機ほ場はわずか0・5%、隣国の韓国、中国にも及びません。

ひるがえって、わが国でも有機農産物を求める人、自分に有機農業はできないだろうかと興味を持つ人は着実に増えていきます。こうしたニーズに、農業関係者は適確

に对应しているでしょうか。日本の有機農業の伸びが鈍いのは、求めに対応できず、しくみが整っていないのも一因ではないかと考えます。

この本は、有機農業に関心を持った人や対応する関係者に、できるだけ容易に有機農業にアプローチしてもらおうためのガイドブックとしてまとめたものです。

### 技術の基本、研修先の選び方、販路：

第1章は有機農業が求められている理由として、持続可能な開発目標（SDGs）の課題、気候変動や生物多様性の危機にあつて、世界の農業のあり方が必然的に有機農業に向かっていることを述べました。

第2章は、有機農業の考え方と技術の基本、さまざまな営農スタイルを紹介しました。初心者向けの解説ですが、既存の農業関係者にも再確認してほしい内容です。

第3章は、有機農業の学び方として、研修を受けることの大切さと研修先の選び方を取り上げました。

第4章では、就農にあたって必要な販路の見つけ方、各種公的制度の活用や相談先、資金対策、営農計画の立て方などを解説しています。

第5章は有機農業で就農した先輩たちのことを12例紹介しました。就農を夢見ている人には格好の参考になるでしょう。各章に、関連ワードのコラム欄も設けました。

### 行政の相談窓口に必要な心得も

そして第6章で、研修生を受け入れる側の対応方法や、行政の相談窓口において必要な心得を述べました。「有機農業したい」と行政に相談しても丁寧に対応してもらえない例がありますが、その背景には対応者の無理解もあるのでは。このガイドブックは、指導行政の関係者にも手許においてもらうことを期待しています。

有機農業がなぜ求められるのか、もうかる農業かどうかの前に「農業したい、農村で暮らしたい」人の思いは何か、環境保全のために地域農業はどうあるべきか、先を見すえ、見識を持つて対応できる人が増えてほしいと切に願っています。

あしたを拓く有機農業塾 涌井義郎